

つら

TAKUSUI
No. 723

1

January, 2017

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



カキ剥き体験 (相生市)

平成29年 年始のご挨拶 JF兵庫漁連 第41回 通常総会 開催

《今月の海上安全標語》～ 今年^{トリ}は酉年!! ～

今年もよろしくお願いたします! 新たな年の始まりをキッカケにライフジャケットを着用してみませんか?
浮いていることで助かる可能性がグ〜ンと高くなります!!

操業の 不安^{トリ}り去る ^{ライフジャケ} LJ

では、今年も安全操業で!



兵庫の未来を切り拓く

兵庫県知事

井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。近年の世界協調の流れが、今年、大きく変わる可能性があります。特にアメリカの新体制の動きやイギリスのEU離脱交渉、原油等資源価格の動向、これらに伴う為替の不安定化などが懸念されます。先行きの不透明感が高まる中、いかなる情勢の変化にも対応できるよう、足元を固めなければなりません。

国内では、少子高齢化に対応した社会システムの構築が待ったなしの課題です。日本全体の活力を低下させる東京一極集中にも歯止めをかける必要があります。

人口が減少し、少子高齢化が進もうとも、安定し、活力を保ち続ける地域を創っていかねばなりません。地域創生の取組を軌道に乗せていくことが今年の県政の大きな課題です。

第一は、安全安心の確保。福祉、医療の更なる充実により、二〇二五年問題に挑み、安心して暮らし続けられる地域を創りましょう。防災・減災対策を着実に推進し、来るべき災害への備えに万全を期しましょう。

第二は、県民の活躍促進。高齢者、

障害者、女性、若者などすべての県民が能力を発揮できる環境を整え、ともに、教育の質を高め、ふるさと人材の確保を進めましょう。

第三は、産業の活力増進。更なる企業集積に取り組み、新事業展開や起業を後押ししましょう。また、農林水産業を成長産業と位置づけ、イノベーションを興しましょう。

第四は、交流の拡大。交流人口の増加で地域に賑わいを生み出しましょう。兵庫五国の多様な資源に磨きをかけ、国内外から人が集う地域を創りましょう。

一八六八年の兵庫県発足から一五〇年の節目の年が近づいてきました。今こそ、これまでの兵庫の歩みを振り返り、次の一步の足がかりとなる新たなビジョンを描くときです。そして、県民の皆さんの夢と地域への思いを結集し、兵庫の未来を切り拓く。さあ、新しい地域づくりのステージへ、ともに一步を踏み出しましょう。

ふるさとの発展をめざす地域づくり

一人ひとりの決意に依らん

CONTENTS

No.723 January. 2017

- 2 新年のご挨拶
- 7 第41回 JF兵庫漁連通常総会 開催
兵庫県内海漁船保険組合平成28年度臨時総代会 開催
- 8 兵庫JCC主催の研修会「虹の仲間づくりカレッジ」に
摂播漁青連が協力
- 9 宮内庁への献上ノリが決定
- 10 第1回 乾のり入札会 開催
- 11 平成28年度「ひょうご海の子作品展」作文部門
- 12 神戸海上保安部からのお知らせ
- 13 兵庫県漁協青壮年部連合会 若手漁業者対象研修会 開催
海難事故をなくそう
- 14 兵庫JCC通信
- 15 旬に想う
大輪田塾だより
- 16 平成28年度「ひょうご海の子作品展」絵画部門



表紙の言葉

「カキ剥き体験」(相生市)

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

今月の表紙写真は、12月10日(土)兵庫JCCの研修の一環で、大学生が相生市を訪れ、カキ養殖視察の際に行ったカキ剥き体験です。(関連記事9頁)学生の皆さんは、初めての光景と作業に戸惑ったようですが、生産者や担当者からの熱心な指導のお陰で、段々と手つきが良くなってきて、最後には笑顔がこぼれていました。

今年は酉年。酉は「とりこむ」で、商売などには縁起が良い年とされています。

兵庫の水産物が、たくさんとりこめる年となれば良いですね。

新年のご挨拶



年頭のご挨拶



兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長

田沼 政男

新年明けましておめでとございます。年頭にあたり、県内JF組合員の皆様ならびにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

昨年6月に山田会長のお引き継ぎ、新会長に就任以降、山積する課題に、無我夢中で取り組んだ半年間でした。初めて直面する事象も数多くありましたが、自分なりに全力で取り組むことができたと思っております。また、

本会の41期事業におきましては、計画を上回る実績となり、会員の皆様に対して出資配当並びに事業分量配当を実施することが出来ました。これは、ひとえに会員各位を初め、系統団体、関係各位の皆様のご支援、ご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げますと共に、役職員一同、なお一層の努力を続ける所存です。

さて、漁業を取り巻く環境が厳しさ

を増す中、我々は全漁連に呼応し、水産関係予算獲得に総力をあげて取り組んできた結果、2017年度水産関係予算では、総額1,784億円が措置されました。特に「浜の活力再生プラン」を礎にした漁船建造に関するリース事業や機器導入事業等により本県漁業の構造改革をはじめ、漁業経営の安定化のため関係団体と連携して、今後も強力に推進しているところであります。

また、一昨年の瀬戸内海環境保全特別措置法改正を受けた取り組みとして、全窒素・全リンの計画処理水質の大幅な増加を求める「播磨灘流域の下水道整備総合計画に関する要望書」を知事に提出する等、直面する諸課題を一つずつ解決し、次代を担う漁業者のために、豊かで美しい漁場再生へのしっかりした道筋をつけていくほか、コープこうべと連携して展開している

「ひょうご地魚推進プロジェクト」や「プライドフィッシュプロジェクト」等と併せ、昨年4月に農協直売所パスカルさんだ内に開店した「漁連の魚屋」を起爆剤として、今後も魚食普及の更なる拡大を図ってまいります。

最後になりますが、会員はじめ関係各位のご指導とご理解・ご協力により、本会は昨年9月をもって合併40周年を迎えることが出来ました。将来にわたり水産業の発展を支える組織として、今後も日々改革に邁進し、漁業者の意欲を後押しできる体制構築や、漁業生産の維持向上に全力を尽くす決意をいたしますと共に、本県漁業が活気に溢れ、夢膨らむ良い年となりますよう、皆さまのご繁栄とご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。





年頭のご挨拶

兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長

中川 照央

新年あけましておめでとうございま
す。年頭にあたり、会員並びに組合員の皆
様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より本会業務の運営に格別のご高
配をいただいておりますことにあらため
て厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、我が国経済は、消
費増税時期の先送りや事業総額28兆円超
の「未来への投資を実現する経済対策」
が打たれたものの、その効果は早くとも
平成29年以降と想定されるほか、1人当
たりの賃金の上昇テンポも緩やかなまま
であることから、景気回復感の乏しい展
開となりました。

そのような状況下で、安倍政権は、
1億総活躍社会に向けた「働き方改革実
現会議」の設置や、女性の社会進出を後
押しする観点から所得税全般に渡る幅広
い検討の開始、未来への投資拡大を審議
する「未来投資会議」の開催など、第4
次産業革命イノベーションやローカルア
ペノミクスの深化などに取り組んでいま
す。

また、平成28年1月にマイナズ金利
政策が導入されて以降、国内金利は大
きく低下しましたが、貯金金利の低下
幅が小さい一方で、貸出金利が大きく
低下したことから、金融機関収益を圧

迫することとなりまし
た。その後、日銀はこれ
までの緩和策に関する
「総括的な検証」を行い、
物価上昇率2%を目指す
ために何が重要かという
観点から、「長短金利操
作付き量的・質的金融緩和」という新
しい政策運営の枠組みを導入し、予想
物価上昇率を引き上げることとしてい
ます。



兵庫県漁業共済組合
組合長理事

年頭のご挨拶

川越 一男

新年あけましておめでとうございま
す。平成29年の年頭に当たり、皆様の本年
のご多幸を心より祈念申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、熊本地
震を始めとした大規模の地震が日本各地
で発生し、また、阿蘇山では爆発的な噴
火が起こり、そして、日本上陸の台風が
6つを記録するなど、改めて自然災害の
恐ろしさを思い知らされる一年となりま
した。

幸いにも、本県において重大な被害を
もたらした自然災害はありませんでした
が、今後とも無いは言い難い状況である
ことを十分に認識する必要があります。
一方、国際的には、リオデジャネイロ
でのオリンピックで日本が過去最多数と
なるメダルを獲得するなど明るい話題も

本会においては、和歌山県信漁連と、
会員及び利用者の負託に応え、「安心」、
「安全」の金融サービスを安定的に供給
していくための最善の選択は、県域を
越えた大同合併であるとの共通認識のも
と、平成29年4月1日付合併を行い、「な
ぎさ信用漁業協同組合連合会」として生
まれ変わることとなりました。
合併後においても、設立以来本会が
担ってきた漁業系金融の安定的な継続
実施と将来に向けての「経営力強化」を

ありましたが、TPPか
らの脱退を表明している
トランプ氏が米大統領
に就任するなど、不透明
な政治・経済状況が水産
業にも波及するのではと
不安が深まります。

本県の漁業状況は、ノリ養殖業が堅調
な単価に支えられ158億円を超える共
販実績となったこと、船曳網漁業は大阪
湾でのイカナゴ漁が不振であったものの
イワシの漁獲が比較的堅調であったこと
から、概ね半年並み近くの漁獲状況とな
りました。また、カキ養殖業では、一部
で酸欠によると推定される斃死がありま
したが、比較的順調に成育しており今後
が期待されております。

加えて、但馬地区においてのズワイガ
二漁やカニかご漁業では、単価高に支え
られ半年を上回る水揚金額となっていま
す。

このように、昨年の県下の漁業状況は
比較的良好であり、漁業関係者にとって
喜ばしい状況でありましたが、将来的に
は地球温暖化に伴い非常に強い台風の数

基本方針に、「浜の暮らしを守る信頼の
金融」を行う「職能的地域金融機関」を
目指し取り組んでまいります。
最後になりますが、今後とも役員一
同、水産系統組織の一員としての自覚を
持ち、系統金融機関の機能発揮に取り組
んでいく所存でございます。
本年も、皆様のご支援・ご協力を賜り
ますようお願い申し上げます。新年のご
挨拶とさせていただきます。

が増える予測されていることや、南海・
東南海地震などの巨大地震の発生確率が
今後30年以内に60%を超えると想定され
ているなど、自然災害の発生に対する備
えを抜かりなく整えることが肝要である
と確信しております。

「ぎよさい」と「積立ぶらす」は、災
害対策・漁業経営安定対策としての機能
を有しており、万が一の時にはその機能
を十分に発揮できるものと考えます。全
国的に共済団体で加入率の向上に取り組
んでおりますが、本県におきましても、
共済事業の更なる普及推進に向けて、役
職員一丸となり努力しておりますので、
どうか本年も変わりのない皆様方のご理解
とご支援を賜りますようお願い申し上げ
ます。

最後になりましたが、今年の干支は酉
年で、商売繁盛に繋がる縁起の良い年と
考えられております。これにちなみ、本
年の水産業が一層発展し、操業の安全が
続き、そして皆様方にとって実り多き年
となりますよう心よりご祈念申し上げます。
年頭のご挨拶といたします。

新しい年を迎えて

兵庫県農政環境部農林水産局
水産課長

小林 孝司

新年あけましておめでとうございませう。皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。新しい年が希望に満ちた一年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

昨年は、「観測史上初」の気象記録や、英国のEU離脱決定、トランプ氏が多くの世論調査結果を覆し米大統領選挙に勝利するなど、意表を突くニュースが相次ぎました。

そのような中、本県水産業界にとって転換の年であったと思います。その一つは、かつての豊かな海への再生です。水産関係者の長年の取組と引き継ぎ、5月には「播磨灘等環境保全協議会」が発足、10月には「瀬戸内海の環境保全に関する兵庫県計画」を策定しました。この計画では、瀬戸内海の①沿岸域の環境の保全・再生及び創出、②水質の保全及び管理の推進、③自然景観及び文化的景観の保全、④水産資源の持続的な利用の確保を目指します。今後は「播磨灘等環境保全協議会」において、漁業者団体はもとより、環境、土木等の関係部局との連携を図り、一体的な取組により瀬戸内海を豊かで美しい里海に再生しつつ、水産業の一層の振興を図って参ります。

次に漁業経営環境の好転です。燃油価格の安定、国内の魚介類消費の下げ止まり、魚価の上昇、新規漁業就業者数の回復など、近年、水産業界を悩ませていた多くの問題が改善に向かい始めました。この追風を受け、将来を見据えて生産

施設を充実させるなど、漁業経営に前向きに取り組まれる漁業者が増加しており、漁業近代化資金の融資額も回復してきています。県ではこの明るい兆しを育て、力強い動きにしていくためにも、昨年スタートさせた地域創生の取り組みを、国の施策とも連携



新年のご挨拶

兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター所長

堀

豊

新年明けましておめでとうございませう。皆様方には清々しく新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。さて、昨年は養殖ノリ生産金額が単価の高騰で上昇し、喜ばしい結果となりましたが、ノリ生産枚数は減少し、底びき網も厳しい状態が続く、イカナゴ漁では漁獲サイズをアップし一定の水揚量を確保したものの資源量は低い水準で推移しています。

このような中、業界、行政、研究機関が一体となった取組みの成果である「改正・瀬戸内海環境保全特別措置法」の下で、今後さらに「豊かな海」の実現を目指した取組みを強化する必要があります。

水産技術センターにおいては、栄養塩と漁獲量との関係を解明する研究をはじめ、イカナゴ・シラスの漁況予測等の資源管理技術、川砂を活用した漁場造成等の資源増大技術、近年の漁場環境の変化に対応したワカメやカキの種苗生産・養殖技術のほか、ノリの優良品種、アサリの養殖技術の開発、さらに漁業者の皆さま

を図りながら、今年も着実に推進し、元気を浜づくりに努めますので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。新たな年の始まりとともに、本県水産業が益々発展し、未来に向かって力強く前進されますことと、新しい年も平穏で安全な操業が続く、豊かな海の幸に恵まれますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。

また日本海では、漁業調査船「たじま」による試験操業や計量魚探を活用した資源量の定量的把握技術の開発により、ズワイガニ、ハタハタ、ホタルイカやソデイカの漁況予測情報を迅速に発信するとともに、漁期以外のズワイガニを保護するための漁具改良等の資源管理技術や、漁獲物の脂質特性と品質評価技術の開発等に努めます。

また役立つ情報の迅速な発信等を積極的に進めます。



年頭のご挨拶

兵庫県農政環境部農林水産局
漁港課長

金谷 泰幸

新年あけましておめでとうございませう。皆様方におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、4月に発生した熊本地震、観測史上初めて東北地方の太平洋側から直接上陸した台風10号などにより甚大な被害が発生しました。これらは想定外のこ

今後とも漁業者の方が困った時に気軽に相談いただける水産技術センターであり続けることに加え、現状を打破する新たな技術を提供できる研究機関を目指し、本県水産業の発展に鋭意努力してまいりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。最後に、兵庫の海が獲る人から消費する人まで全ての人に豊かな恵みをもたらしてくれる1年でありませう、また、新しい年が皆様にとって実り多い年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

とだと思えますが、兵庫県では、近い将来発生が懸念される南海トラフ地震による想定外の被害を極力なくすために、瀬戸内海側において、「津波防災インフラ整備計画」を一昨年6月に策定し、

漁港では昨年、沼島漁港の港口水門に着手するなどの取組みを進めています。日本海側においても、平成29年度には日本海の津波浸水想定を公表する予定です。また、「美しいだけでなく豊かな海」の実現を目指して、皆様方のご努力により改正された「瀬戸内海環境保全特別措置法」において、「栄養塩類（りん、窒素）と水産資源との関係の解明」が検討事項



とされましたが、県独自の取組みとして兵庫県立農林水産技術総合センターがイカナゴを対象魚種として因果関係の調査を進めており、その成果が期待される所です。



年頭のご挨拶

全国漁業協同組合連合会
代表理事 会長

岸

宏

新年あけましておめでとうございませす。全国の組合員並びにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

振り返りますれば、昨年も多くは自然災害が襲ってまいりました。その中でも4月に発生した熊本地震では、私自身複数回に亘り現地を訪問し、JFグループとしていち早く総額7,600万円にものぼる系統募金を贈呈することができました。現地では既に海苔共販が行われるなど復興に向け前に足を進めております。ここに改めて皆様のご協力に御礼申し上げます。

また、昨年は漁業者の悲願であった漁船建造に関するリース事業や機器導入事業などによる「水産業競争力強化緊急事業」が平成28年度補正予算で255億円措置され、「浜の活力再生プラン」という海図とともに漁業者自らが浜の構造改革を実践できる段階に入りました。私は常々申し上げておりますが、知恵は現場にあり、漁業者が自らの浜に合う方法でJF、行政など関係要路の協力を得ながら、構造改革を確実に進めていきたいと思います。

一方で、浜の構造改革には、人材育成も重要です。これについては、近年、漁

業に魅力を感じている若者たちの就業をはじめ、浜の起業家育成など、人材育成の仕組みを創り出す。また、水産物の消費拡大、輸出振興については、平成26年度より開始したプライドフィッシュプロジェクトやシンガポールのアンテナショップを活用した取り組みが消費者、



全国共済水産業協同組合連合会
代表理事 会長

新しい3か年計画がスタート

川端 勲

新年あけましておめでとうございませす。平成29年の年頭にあたり、浜の皆様にご挨拶を申し上げます。

また、昨年は本会の事業活動につきまして、多大なるご支援を賜わり心からお礼申し上げます。

はじめに、昨年発生した一連の大規模地震や大型台風、豪雨等の自然災害により被害に遭われた全国各地の漁業関係者および地域住民の皆様に対し、衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、JF共済を取り巻く情勢は本格的な人口減少の到来、漁業従事者の減少や水産物国内消費の伸び悩み、地球温暖化などによる水産物の生息環境の変化など、先行き不透明で相変わらず厳し

不透明とは無縁だと思えます。本年も兵庫県の水産物を安定的かつ持続的に供給できるよう、漁港課の役割である漁港の津波・地震、老朽化対策及び漁業構造改善事業など、なお一層安全で活力ある漁港、漁村づくりに取り組んでまいります

流通に対して一定の浸透と効果を出しており、これらを押し進め更なる消費拡大を図って参ります。

このほか、漁業者が担っている漁業の多面的機能の一つである国境監視機能について、多くの国民の支持をいただくための取り組みを行うとともに国に対して国防機能の中で漁業者、漁村の果たしている役割、重要性をしっかりと位置づけていただくよう強く求めてまいります。

い状況が続いているものの、漁業生産額の底打傾向や若手漁業者の参入増加等、明るい兆しも見え始めています。こうした中、JFグループでは新運動方針（平成27〜31年度）を定め、「水産日本の復活」に向けて、浜の漁業の持続や漁業所得向上に向けた漁業構造改革が進められています。

JF共済においては「3か年計画」も残すところあと僅かとなりましたが、これまで保有契約量の減少傾向に歯止めをかけるための共済事業量の確保に向け、組合員等利用者への全戸訪問活動・保障点検活動を展開することにより、組合員等利用者に対し万全な保障を提供することに努めてまいりました。その結果、27年度末でJF共済の契約件数は62万件、長期共済保有実績（保障金額）は2兆4,629億円、短期共済加入実績（保障金額）は2兆4,993億円に達し、暮らしの一助としての事故・満期共済金も1年間（27年度）で490億円をお支

ので、皆様方のご理解、ご支援をよろしくお願いたします。

最後になりましたが、本年が皆様方にとって更なる飛躍の年となりますよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

会員をはじめ、関係者の皆様にかかれましては、これら諸課題を乗り越え、本会と共に「水産日本の復活」に向けた歩みを進めていただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、全国各地で活躍の漁業者の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

払いしています。

また、継続的・安定的な事業基盤を確立するためJF共済事業の健全性強化にも取り組んだ結果、支払余力（いわゆる「ソルベンシー・マージン」）比率は1,128.2%（27年度末）を確保することができました。今後も、引き続き共済事業経営の一層の健全性強化に取り組むとともに、組合員・地域住民の皆様への負託に応え、ご利用者ニーズにあった保障制度の提供につとめてまいります。

いっぽう、JF系統の方針として平成26年7月1日から平成28年6月30日までの2年間限定で行った漁業者年金の「一括払制度」の選択状況は、JFにおいてきめ細かな個別ご案内を行い対象者の約66.9%の方が選択されました。これもひとえに皆様方のご理解とご尽力の賜物と厚くお礼申し上げます。

今年も、新しい3か年計画がスタートする節目の年となります。様々な取り組みを力強く実施してまいりますので、引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

第41回 通常総会 開催される



12月9日(金)、神戸市内のホテルにおいて、JF兵庫漁連(田沼政男会長…JF林崎)の第41回通常総会が、県農政環境部農林水産局藤澤崇夫局長、農林中央金庫大阪支店戸高聖樹支店長をはじめ、多数のご来賓のご臨席のもと開催されました。

開会にあたり、田沼会長が「昨年10月に改正瀬戸法が施行され、組合長の皆様には管理運転への要望活動の取り組みを続けていただいている中、本会としても、兵庫県播磨灘流域別下水道整備総合計画(流総計画)についての要望書を井戸知事宛に提



挨拶を行う田沼会長

出しました。豊かな海への再生に向け、一層の取り組みが必要であると考えております。また、漁船リース事業、機器導入事業においては、全ての方々のご希望にそえるよう、関係機関に対して強く要請していきま

す。」と挨拶をされ、続いて来賓として、藤澤局長及び戸高支店長から祝辞がありました。
第41期の事業実績は、ノリ養殖が順調に推移したこと、から、購買事業・販売事業のほとんどで計画を上回り、事業総取扱高245億5千9百万円、事業利益2億3千5百万円(計画対比1億3千8百万円増)、経常利益2億1千9百万円(計画対比1億7千8百万円増)となり、事業報告など全議案原案通り承認されました。
(文：JF兵庫漁連)

「兵庫県内海漁船保険組合 平成28年度臨時総代会」開催される

兵庫県内海漁船保険組合(山田隆義組合長理事)は、12月5日(月)神戸市内のホテルにおいて「兵庫県内海漁船保険組合平成28年度臨時総代会」を開催しました。

開会にあたり、山田組合長は「平成29年4月の新組合設立に向け、今年5月18日には「漁業経営に関する補償制度の改善のための漁船損害等補償法及び漁業災害補償法の一部を改正する等の法律」が公布され、法的環境が整ったことから、この度、合併に向けての決議をいただくことになった。当組合としての総代会は今回をもって最後となる

が、本日、提案させていただいた議案について慎重なる審議をお願いします」と挨拶をされ、続いて、来賓の県水産課 小林孝司課長から祝辞を頂きました。

この後、総代 社領 弘氏(丁



挨拶を行う山田組合長

F一宮町)が議長に選任され、第1号議案 新設合併の決議について、第2号議案 設立委員の選任について、第3号議案 平成28年度上半期事業報告書等の承認について、第4号議案 役員退職手当の支給についての4議案が審議され、全議案とも全会一致で可決承認されました。

(文：兵庫県内海漁船保険組合)

兵庫JCC主催の研修会「虹の仲間づくりカレッジ」に摂播漁青連が協力

兵庫県内の農協・漁協・森林組合・生協で組織する兵庫JCC（兵庫県協同組合連絡協議会）は、各協同組合の次世代を担う職員が顔の見える関係を作り、協同組合について一緒に考える「虹の仲間づくりカレッジ」を開催しています。

同研修の第1回目は8月に行われ、「県内協同組合の職員の交流を通じた協同組合間協

同の実現」をテーマとする「食」に関する研修のなかで、摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会（大西正起会長…以下、摂播漁青連）が招待され、県内の大学生協と協同で行う「LOVE SEA丼」の事例を紹介し、今後の新たな取組みの可能性を一緒に考えました。これを受けた第2回目の研修では、同カレッジの参加者が「大学生に対して何が出るのか」のテーマのもと、4つのグループに分かれて、①料理教室、②大学生協でオリジナル朝定食の提供、③農水産業の体験と「兵庫鍋」づくり、④カキ養殖見学と作業体験の企画を考案し、県内大学生を招い



網の中に入っていた魚などの説明を受けました

て県下各地で実施しました。今回はそのうちの12月に行われた③と④の企画をご紹介します。

1) 「兵庫鍋を作る」(12月4日)：姫路市妻鹿漁港付近)

これは、学生が漁業や農業の現場に出向き、作業体験を行って収穫したものを自ら調理し、「兵庫鍋」を作る企画です。姫路市白浜町の「姫路とれとれ市場」(運営：JF坊勢)に集まった兵庫県立大学の学生14名をはじめ、同カレッジの参加者、摂播漁青連や関係者あわせて約30名は、ここで海班(漁業体験)・山班(農業体験)に分かれてそれぞれ現場に向かいました。海班はJF坊勢の船



魚も野菜もとれたたの「兵庫鍋」

で姫路沖に向かい、同JF所属の小型底びき網漁船の操業の様子を見学し、港に戻ってから魚の選別作業を体験しました。選別時には、アカシタ、ガザミ、エビ類の他、ヒトデやウミケムシ、空き缶やナイロン袋などが入っており、摂播漁青連 上田剛輝副会長(JF坊勢)から船上での作業の説明を受けると、学生らは「この作業を10分足らずで行うのは想像以上の早さ」と驚いていました。

この後、学生らは自分達で調理した魚介類と、山班の学生が収穫した野菜を使って「兵庫鍋」を作りました。学生らは事前に考えてきたレシピをもとに、醤油鍋・味噌鍋・水炊き鍋

の3種類を仕上げ、試食の際は、自分達が獲ってきた農水産物の収穫体験や、初めて味わう海の幸の話について摂播漁青連メンバーとともに会話も楽しんでいました。

2) カキの産地見学と作業体験(12月10日(土)：相生市)

これは、西播地区を中心に盛んに行われているカキ養殖について学ぶとともに、カキ剥きやカキ殻掃除などの作業体験を行うもので、相生市の竹内水産の協力を得て開催しました。関西国際大学の学生10名や関係者あわせて約20名は、まずカキ養殖についてJF兵庫漁連指導部 西本広幸主任から説明を聞いた後、加工



小型底びき網漁業について学びました

場でカキ剥き作業の見学をしました。この後、摂播漁青連 竹内 裕騎さん、岡本学さん（ともにJF相生）から手ほどきを受けつつ、約40分間わたりカキ剥きを体験しました。最初は何処から剥くのかも分からず、また、上手くカキメス（カキを剥く道具）が殻の間には入らず、「難しい」と言っていました。丁寧な指導もあって時間が経つにつれ作業スピードが上がリ、学生からは「楽しくなってきた」と笑顔がこぼれていました。カキ殻の掃除では、学生らはルーターを使って、次々にフジツボやホヤなどの付着物を真剣な表情で取っていました。その他、食について考える学習会や、カキや兵庫の農水産物を使ったバーベキューでは生



カキのほか、アナゴやニギスなども焼いたバーベキュー

産者や漁青連メンバーとの交流もあるなかで、想像より手の掛る作業を経てカキが流通していることを実感できたようでした。



初めての作業ですが楽しかったようです

宮内庁への献上ノリが決定！ ～今年もJF明石浦「新優」～

JF兵庫 漁連（田沼 政男会長・JF林崎）は、毎年、その年に獲れた新ノリを宮内庁へ献上しています。これは、元々淡路市のJF森が昭和41年頃にはじめたものを、JF兵庫漁連が引き継いでいます。

本年度の献上ノリを決める審査会は、12月17日（土）JF兵庫漁連のり流通センターで行われました。JF兵庫漁連の田沼会長をはじめ役員を務める組合長や関係者ら9名の審査員が、JF名や等級を伏せて並べられた4品のノリを手にとりて見比べたり、光で透かしてみたりしたほか、軽く炙って食感や味を丁寧に確かめました。色・艶・味などの項目で評価した結果、JF明石浦「新優」が選ばれました。審査後、田沼会長は「厳正なる審査のもと、審査員全員で決めたノリである。兵庫で一番のノリを宮内庁に届けます」と話され、終了しました。

このノリは、毎年漁連会長の手で宮内庁に献上しており、今年も21日（水）、田沼会長により宮内庁に持参献上されました。



厳正な審査を経て、今年の献上ノリが決まりました

第1回乾のり入札会を開催

本格的な冬の到来を感じさせる季節となり、全国各地ではノリの入札会（共販）が始まっています。

全国有数のノリ生産量を誇る兵庫でも、JF兵庫漁連（田沼政男会長・JF林崎）が、臨時共販（12月12日）に続き、12月17日（土）には第1回共販をJF兵庫漁連のり流通センター（加古郡播磨町）で開催し、全国各地からノリ入札商社42社の約110人が集まり、見本のノリを手にとりに品定めをするなど、共販会場は活気に包まれました。



（第1回乾のり入札会：結果）

共 販 枚 数	2,308万枚
共 販 金 額	3億2,045万円
平 均 単 価	13円81銭
最 高 値	55円00銭

この日挨拶に立ったJF兵庫漁連 田沼政男会長は「海水温が高い影響などから、ノリ生産の難しさを実感しているが、お陰さまで第1回目の共販を開催することが出来た。ノリ養殖には欠かせない栄養塩等の取組みについては、今後、県と連携してよりよい環境を目指して、皆さんの期待に十分応えるよう努力していく」と話されました。続いて、兵庫海苔入札指定商組合 松谷 晃理事長（松谷海苔株式会社）は「近年は全国的にノリ生産が不安定でノリ商社にとっては厳しい状況であるが、生産者の意欲を維持するような価格も必要。兵庫には高品質なノリの潤沢な生産を望んでいる」と挨拶をされ、兵庫におけるノリの安定的な生産に期待を寄せられました。今漁期の入札会は全15回（12月12日開催の臨時共販を含む）が予定されており、最終共販日は5月9日（火）となります。

兵庫のり研究所川崎周



色艶のある「兵庫のり」が出揃いました

作所長にノリ養殖の現況について聞いたところ「今漁期は、当初、高水温の影響でノリ網の張り込み作業が遅れが生じ、その後の水温降下も鈍かったことからノリの芽の生育は良くな、一部海域で栄養塩の低下も見られた。しかし、現在は栄養塩も平年並みであり、今後水温が下がってくることや、ノリを刈り進めることで成長も促進されることから順調に生産されるのでは」と話され、今後に期待が持てそうです。

いよいよ始まったノリ養殖。今漁期の順調な生産と安全操業を祈念いたします。



挨拶に立った田沼会長（左）と松谷理事長

平成28年度 「ひょうご海の子作品展」 作文部門 受賞者決定!!

JF兵庫漁連とJF兵庫女性連は、輝く未来を担う小中学生に、海を愛し、美しく豊かな海を守る事の大切さと漁業に親しむ心を育てるため、「ひょうご海の子作品」(絵画・作文)を県下の小中学生を対象に募集し、作文87点、絵画1,910点のご応募をいただきました。

11月14日(月)に絵画部門、12月9日(金)に作文部門の最終審査会を行い、受賞作品が決定いたしましたので、その一部をご紹介します。

(絵画部門は16ページに掲載しています)

【作文部門】

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	淡路市立学習小学校	5	武田 紅葉	大好きな海
兵庫県教育長賞	淡路市立石屋小学校	4	森 優希	魚よ もどれ
JF兵庫漁連会長賞	淡路市立学習小学校	5	安東優貴子	港
	姫路市立家島中学校	2	菅原 未久	家島の海でとれるおいしい魚
JF兵庫女性連会長賞	淡路市立学習小学校	5	中田 脩生	日本の海を守れ
	洲本市立由良中学校	3	中山 亜依	限りない資源
JF兵庫信漁連会長賞	淡路市立学習小学校	6	松本 光生	美味しい魚を食べ続けるために取り組めること
	淡路市立志筑小学校	1	坂口紗莉奈	わたしのすきなうみ
農林中央金庫大阪支店長賞	淡路市立学習小学校	5	的崎 文香	私の好きな淡路島の海
	姫路市立家島中学校	1	八木 裕真	漁師のおじいちゃん

※紙面の都合上、佳作は紹介しておりません。

- ・JF兵庫漁連HPで、兵庫県知事賞と兵庫県教育長賞の作文を掲載中!
- ・2月下旬頃に、優秀作品を掲載した“ひょうご海の子作品集”を発刊予定です。

＜兵庫県知事賞＞

大好きな海

淡路市立学習小学校 5年 武田 紅葉

わたしは、淡路島の海が大好きです。淡路島の海は太陽が当たると、海がきらきらかがやいて見えます。夕方には海に夕日がうつり、とてもきれいです。わたしは淡路島の海でとれる魚も大好きです。だから、淡路島のきれいな海を守りたいです。

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、水産加工の仕事をしています。主にちりめんといかなごを加工しています。わたしは、かまあげちりめんといかなごのくぎに大好きです。かまあげちりめんは、ポンスをかけて食べるとごはんによく合っても美味しく食べます。くぎにはてりがあり、かめばかむほど魚の味がします。でも最近は何年か魚がへってきているそうです。それは、うみがよが来てきているからかもしれません。

六月ごろ、海がこれ以上よごれないように、漁師さんと一緒にEM団子を作りました。EM団子とは、水辺の生き物の命を守りながら、海や河川、池などの水質をきれいにする微生物が入っている球のことです。わたしの作ったEM団子で、海を少しでもきれいにできたらいいなと思いました。

漁師さんには栽培漁業と養殖業のちがいについて教えてもらいました。栽培漁業とは、卵から魚になるまでの一番弱い期間を人間が手をかけて守り育て、無事できたら身を守ることができるようになったら海に放流し、自然の海で成長したものをぎよくすることです。養殖業とは、出荷サイズになるまでを水そうやいけすで育てます。つまり、魚の子どもから大人になるまで、人の管理下で育てることです。栽培漁業と養殖業の一番大きなちがいは、栽培漁業は海に魚を放流しますが、養殖業は海に魚を放流しないことです。わたしは、漁師さんは海の魚をとるだけだと思っていたので、いろいろな工夫をしていて感動しました。最後に船にも乗せてもらいました。美しい海で、ほほに当たる風が涼しくて気持ち良かったです。また、底引きあみにかかった魚も見せてもらいました。ハモがとれてたくさんかかっていました。漁師さんが「ハモにかまれたらいいよ。」と言ってハモのするどい歯を見せてくれました。かまれたら本当にいたそうでした。わたしは、でも、漁師さんががんばっているからこそ、わたしたちはおいしい魚を食べられるんだなあと思いました。

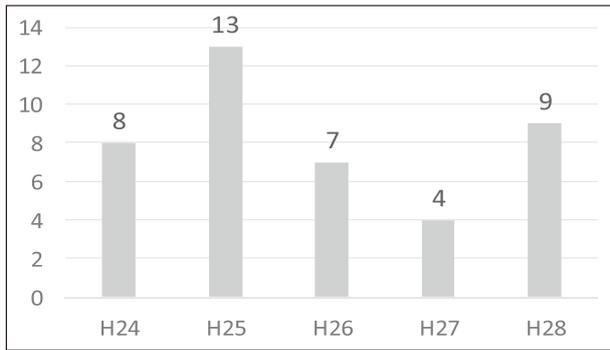
わたしは、これからも淡路島の海がずっとずっときれいでいてほしいです。そして、いつまでもきれいな海でこれた新せん魚を食べたいです。そのためにわたしができることは、少ししかないかもしれませんが、でも、海岸にごみを捨てないことなど、できることから少しずつ心がけていきたいです。

神戸海上保安部からのお知らせ

漁船海難発生状況

(神戸海上保安部・西宮海上保安署管内)

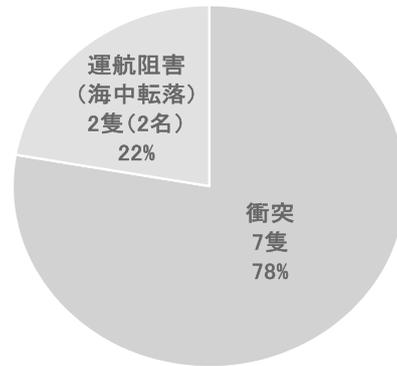
〔過去5年間の漁船海難発生状況〕



(平成28年の数値は速報値)

- 漁船海難は減少傾向であったが平成28年は増加に転じた
- 平成28年の漁船海難は9隻で平成27年に比べて2倍以上に増加

〔平成28年 漁船海難種類別発生状況〕



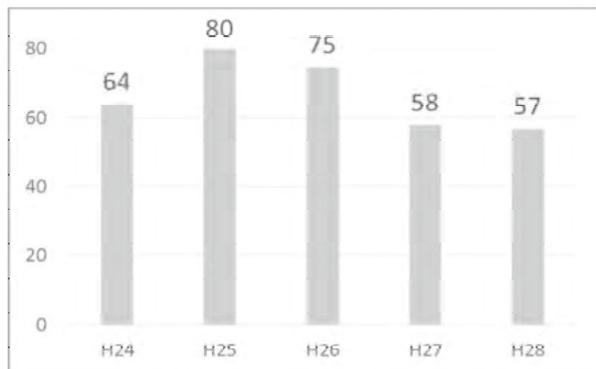
- 漁船海難は衝突が多く、衝突の原因の殆どが見張り不十分
- 海中転落者にあつては2名とも死亡しており、いずれも救命胴衣を着用していなかった

- 航行中のみならず操業中も常時適切な見張りをお願いします。
- 接近する船舶があれば早めの避航をお願いします。
- 自身はもちろん、家族のためにも救命胴衣を着用して下さい。

海難発生状況

(神戸海上保安部・西宮海上保安署管内)

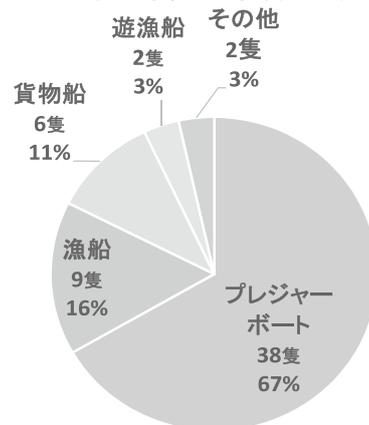
〔過去5年間の海難発生状況〕



(平成28年の数値は速報値)

- 平成28年は海難57隻であり過去5年間では最も少ない
- 平成25年をピークに減少傾向

〔平成28年 船種別海難発生状況〕



- 小型船舶の海難が多く、全体の86%を占めている
- プレジャーボートの海難38隻、全体の67%
(事故の種類別は機関故障14隻(37%)、衝突6隻(16%)、運航阻害(バッテリー過放電、無人漂流)6隻(16%)の順)
- 漁船の海難9隻、全体の16%

※ 小型船舶とは、プレジャーボート・漁船・遊漁船のことをいう

若手漁業者を対象に研修会開催される 兵庫県漁協青壮年部連合会の取組み



熱心に聞き入る参加者の皆さん

兵庫県漁協青壮年部連合会（山崎大輔会長・JF淡路島岩屋）は、若手漁業者を対象にした研修会を12月16日（金）に洲本市で開催し、新規漁業就業者をはじめ青年部員や関係者ら約20名が集まりました。

冒頭、山崎会長は「漁業者の学びの場として、このような機会を設けている。折角の機会なので多くのことを学んでもらいたい」と話され、来賓の県水産課 中西 寛文班長は「島内各地の漁業者が集まる場であり、他の漁業

者との仲間づくりの場としても有意義なものあり期待したい」と挨拶をされました。

この日は話題提供者としてJF兵庫漁連指導部 樋口 和宏主任から「豊かな瀬戸内海の再生にむけて」と題して話がありました。樋口主任は、昨年の瀬戸内海環境保全特別措置法の一部改正に関わってきた経験を踏まえ、この改正までの動きや、豊かな海の考え方などに触れるとともに「最近海が変わったと感じることは？」など質問を投げかけつつ進められ、参加者からは「潮の流れが弱くなっているのではないか」「海水温が高くなっているのではないか」など経験を交えた話が出るなど、様々な意見交換がありました。

この研修は、若手漁業者の資質向上を目的に昨年から始まり、これまで「漁業協同組合」や「操業安全」について研修してきた

たなか、参加者からの希望で、今回は環境がテーマとなりました。

次回は2月7日（火）に「A・I・S」をテーマに開催予定です。



話題提供を行った樋口主任

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着用しよう!

膨張式ライフジャケットは定期的なメンテナンスが必要です！最近ではポンペが下部に配置されたタイプもあり、首回りが楽になっています。是非、着用してください！



ライフジャケット（膨張式）
モデル：（一財）兵庫県水産振興基金
近藤敬三 専務

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

浮力合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。浮力は充分にあり、動きやすいように工夫されています。まだお持ちでない方は是非！



モデル：JF兵庫漁連 田沼政男 会長

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連のり海藻部資材担当(078-942-9272)までお問い合わせください

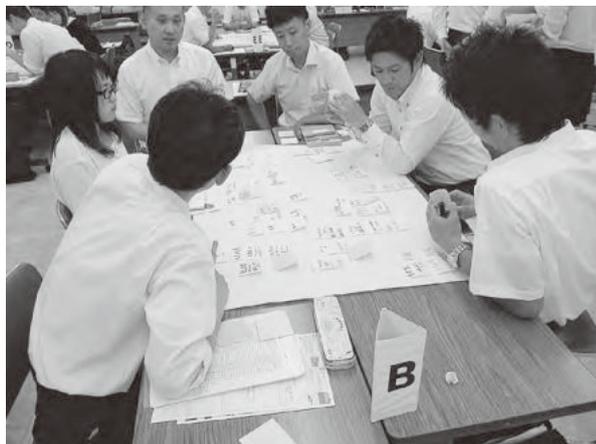
コープこうべとJAが「協同組合塾」 ～課題認識の共有と職員の相互交流～

JA兵庫中央会

協同組合としての課題を共有し、職員の役割について考えるとともに、相互交流を図ることをねらいに、生活協同組合コープこうべとJA兵庫中央会が「協同組合塾」を共催しました。平成28年度は8月、10月、11月の3日間、三木市内の協同同学苑で開催し、コープこうべとJAの職員延べ98人が参加しました。

第1回は、関西大学商学部の杉本貴志学部長が、「これからの地域社会における協同組合の役割—歴史と現状から21世紀型協同組合の役割を考える—」、第2回は、京都生活協同組合の福永晋介さんが『協同組合原則』と『援農隊』地産地消について考える」と題して講演。第3回は、コープこうべの山口一史理事長が「生活協同組合の礎とあした」、JAたじまの尾崎市朗代表理事組合長が「JAたじまの事業活動と営農振興の取り組み」と題してそれぞれ講演しました。

講演後にグループワークを実施。講演の感想を話し合った後、地域社会が抱える課題に対して、協同組合として「やっていること」「やりたいこと」を意見交換しました。受講生は、「お互いの長所や補える点を明確にし、協同組合間協同によって、今抱えている課題や問題にアプローチしたい」「お互いの取り組みを知る事で、生協とJAの両者の強みが見えてきた」「今後の事業展開の広がりを感じた」などと話していました。



グループワークで意見交換する生協とJAの職員

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

兵協連 「保健・医療・福祉研究会」 施設見学

11月29日(火)、「保健・医療・福祉研究会」の施設見学として、大阪いずみ市民生活協同組合コープの高齢者総合ケアセンター「笑顔の里 松原」を訪問。福祉事業の取り組みと地域組合員の事業への関わりや次世代の担い手づくりについて知ることを目的に「保健・医療・福祉研究会」メンバーが参加しました。

最初に常務理事 本多 敬 氏より、大阪いずみ市民生活協の福祉政策・高齢者福祉事業政策について説明いただいた後、介護付有料老人ホーム・サービス付高齢者住宅・デイサービス・多機能ホーム・ヘルパーステーションを見学しました。見学後の交流会では、講義と施設見学を受け、センター設立の経緯や地域包括ケアシステム、「生活リハビリ」の取り組み、今後の組合員の関わり(ボランティア)等、様々な質問があり、大阪いずみ市民生活協 福祉事業部長 黒岡 祐二 氏からは、今後の課題(在宅での介護をどれだけ支えることができるか)についてもお話しいただき、交流を深めました。

▶説明を行う
本多常務



◀利用者自身で予定を決めボードに書き込むシステムを見学

▶交流会の様子



<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

富士の山

◆富士山。その美しい姿は日本人の心を捉えてやまない。「信仰の対象と芸術の源泉」として世界遺産に登録された。これ迄にも増して観光面でクローズアップされたようである。古くから絵画の題材として、数々の名画に勇姿を残している。北斎は『富岳三十六景』を描いて、江戸の町々から望む富士を庶民の姿とともに活写したが、当時の風俗が判る貴重な手掛かりとなっているし、傑作「神奈川沖浪裏」は小船が巨大な波の下になり、遠くに小さな富士を望む構図が素晴らしい。これは海外でも評価が高い。広重も『名所江戸百景』に数多くの名品を残している。三峰からなる頂きは神仙思想から生まれたものである。

◆富士山は約2千5百万〜2千万年前に火山活動を起こし、今の形になる以前、確かなものだけでも10回の噴火を経ている。大きな噴火は八六四年の貞観（じょうがん）噴火と、一七〇七年の宝永噴火である。貞観噴火で流出した13億立方メートルの青木ヶ原溶岩は、当時の巨大な湖《せのうみ》を二つに分ち、「精進湖」と「西湖」になり、四つだった湖が『富士五湖』として揃う。宝永噴火は49日前の地震を引き金に大爆発、16日間に七億立方メートルのマグマを噴出させた。この噴火以降、見かけは沈黙して三百年の休眠火山になったが、不安要素はデカい。

◆富士山は火山地質のため、雨水は全て地下へ浸透して仕舞う。谷や沢が沢山あるが水流は見られず、伏流水となって山麓で湧水して地上に表れる。富士五湖などを形成し、山麓一帯の川の水源にもなっている。流れ出した溶岩が冷えて出来た洞穴があちこちに散在、夏でも涼しい空間に万年水柱が見られるという。登山口から山頂までを十区に分けて何合目と数える。五合目辺りが森林限界で、下は植物相の豊富な森だが、五合目以上は砂礫累々の火山の面影を見せる。高山植物が無いのは独立峰のため、種子の飛来が皆無のせいだが、これから何百年後には少しは変わるとしても、何も無い眺望の豊かさは不変のものである。

◆広い山頂には「お釜」と呼ぶ巨大な火口がある。直径七百米で深さは八合目の位置まであり、頂上から八合目迄は浅間神社の境内という。周囲の八つの峰を菩薩や佛に見立て、お釜を大きな賽銭箱とする。一周には約一時間を要する。最高峰（三七七六米）の剣ヶ峰に、かつて測候所があった。周囲三六〇度の視界を得る独立峰だから気象庁職員が常駐しレーダー観測を続け、台風の進路予想に大いに力を発揮したが、平成11年に無線中継業務を通信衛星に譲り、富士レーダーは廃止された。富岡鉄斎、最後の木炭画「富士山図」に神州第一の山とある。

大輪田塾だより

「JF兵庫漁連の事業」と「ひょうご豊かな海づくり協会の概要」

20日（火）に行われた大輪田塾12月講座では、「JF兵庫漁連の事業について」、「ひょうご豊かな海づくり協会の概要と栽培漁業について」の2講義が開講されました。

「JF兵庫漁連の事業について」ではJF兵庫漁連が講師となり、JF兵庫漁連の組織や、様々な事業の内容を説明されつつ、現在行われている補助事業の内容や瀬戸内海環境保全特別措置法の一部改正を目指した一連の動きと内容、国内の魚介類の消費動向などの話もされ、JF兵庫漁連だけに留まらない内容の講座となりました。

「ひょうご豊かな海づくり協会の概要と栽培漁業について」では（公財）ひょうご豊かな海づくり協会 山村 雅雄専務が講義を担当されました。同協会の成り立ちや事業内容のほか、栽培漁業の基本的な考え方、マダイやガザミといった種苗生産の現状と効果などを詳しく説明され、最後に「栽培漁業は全国的に縮小傾向にあるなか、兵庫は10魚種以上を生産している。今後、どのような魚種を希望されるのか聞かせてほしい」と問いかけられ、塾生と様々な意見を交わされました。



山村専務の講義の様子



JF兵庫漁連について話す突々専務

平成28年度 「ひょうご海の子作品展」 絵画部門 受賞者決定!!

11ページに掲載しています「ひょうご海の子作品展」の絵画部門で入選した皆さんをご紹介します。

【絵画部門】

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	加古川市立鳩里小学校	6	中岡 晶人	淡路島で見たセリ
兵庫県教育長賞	神戸市立東舞子小学校	2	石本 咲月	いっぱい魚がとれているかな。
JF兵庫漁連会長賞	新温泉町立浜坂西小学校	4	山田 奨悟	セリをする人
	加古川市立野口南小学校	4	名古 瑞紀	さんま漁
JF兵庫女性連会長賞	神戸市立東舞子小学校	3	佐々木優薫	メスのタコにすいつかれた!
	神戸市立桜が丘小学校	1	澤田 東吾	きれいなうみとさかなとぼく
JF兵庫信漁連会長賞	神戸市立有野北中学校	2	三崎 萌花	荒波と船
	神戸市立魚崎小学校	5	山内 呂時	たくさんの魚
農林中央金庫大阪支店長賞	加古川市立氷丘南小学校	6	梶川 芽衣	漁港
	加古川市立氷丘南小学校	3	山高 京香	みんなの食卓を守る漁師さん

※紙面の都合上、佳作は掲載しておりません。

- 平成29年1月中旬～3月末日(土日祝日を除く)頃、兵庫県水産会館1階で受賞作品の展示会を開催予定!近くへお越しの際は一度見学してみてください!
- JF兵庫漁連HPでも受賞作品を掲載中! (<http://www.seat-sakana.net/>)



<兵庫県知事賞>

淡路島で見たセリ

加古川市立鳩里小学校 6年 中岡 晶人さん

<兵庫県教育長賞>

いっぱい魚がとれているかな。

神戸市立東舞子小学校 2年 石本 咲月さん